
どっかのオリ勇者さんがトリステインに転生したよ

論理派青年

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

どつかのオリ勇者さんがトリステインに転生したよ

【Zコード】

Z56530

【作者名】

論理派青年

【あらすじ】

どくだっこ?

目を覚まして真っ黒な空間に疑問を抱く。

ああ確かに死んだんだつけ？

俺は知志武一心。ハイラルで魔王ガノンを倒す、勇者なんかをやつてたりした。

なんか、封印が解けたんだって。で、超頑張って倒すことに成功。

いえ、代わりに死にました。

ま、とりあえずここはどこなんだ。

「それなのよね」

「いっは彩。^{あや。}俺の契約精靈をやつてたりした。

「ここは死後の世界です。」

誰だあんた？

「あなた方にお礼がしたいのです。」

ふん礼ね。じゃ転生チートよろ。

実際はこんなに軽くするつもりはありません

#00魔法について（前書き）

作品で出てきたオリ魔法を一一りで紹介します。
ある程度の説明も行います。
ただ自分でも意味不明なところあるので適当な理解でいいです。

#00魔法について

> i 1 3 3 1 0 — 1 8 6 3 <

これが#01の「魔術を極めた証」です。下はその説明です。

> i 1 3 3 0 9 — 1 8 6 3 <

魔術は精神エネルギー

系統魔法はこれの一部

氣術は肉体エネルギー

ハルケギニアでは見つかっていない。使える人がいても一般テク
ではない

靈術は超自然エネルギー

先住魔法はこれの一部。精霊の力などもこれの一部。

知術は精神×超自然で特殊攻撃

力術は肉体×精神で物理攻撃

勇術は肉体×超自然で変化効果

(これらの力はゼルダのトライフォースを参考にしている。三位一
体の考え方である)

上記以外の理を外れたものを外法(そのどれにも属さない)

虚無の魔法はこれの一部で、ガノンが使った力もこれ

上記以外の理に適つたものを神法(肉体×精神×超自然)
使えはするが、リスクが多い場合が多い。

力関係は(ただし各最高クラスの術での比較とする)

氣術=魔術=靈術<勇術=力術<知術<外法<神法

必要となるエネルギーは効果時間によつて変わる。

永久 > 長時間（1週間～）> 中時間（1日～）> 短時間（～1日）

> 瞬間

効果時間が長いものほど、詠唱・陣・触媒が必要になる（実力によつて変わる）。

詠唱などの事前動作は、消費エネルギーによつても変わる。例えば明りの魔法を普通に使って10の消費だとしたら、動作なしで行つたら100消費する。

また、因果律を操作するものは、安全措置のため詠唱が必須となる（なくともできるがどれだけよくても五分五分の成功率）。

術共通

・ショートカットカード

術式を魔力などによつてカードなどに掘り込み、イメージを固定化することでの、

必要なエネルギーを込めるだけで術式を発動可能にする方式。

エネルギー消費を半分以下に減らせるうえに凡庸性が高い。

また、これをカードに掘り込んだものをショートカットカードと呼ぶ。

#02の早着の腕輪や飛行する大剣、#03のクックベリーパイなど

魔術

風系統

・浮遊

レビテーションとフライを組み合わせたもの

氣術

9

- ・同調

他者に氣術を施す際に必須となる術。理由は氣術は基本的に自分を強化するものだから。

ある程度の感覚共有が出来る。（H口い意味で言えば……） 無視してください

- ・肉体活性

肉体器官の状態を最適化する。

ただし、癌の人を使うと癌細胞も活性化してしまっため悪化

- ・肉体正常

肉体器官の状態を正常化する

- ・早着

着替えを変身魔法のように一瞬で終わらせてしまう術

普通に使うとエネルギー消費が激しい。

ショートカットコードで何かに登録しておけば消費を1／10000000に抑えられる

- ・酔い止め

そのまままの効果。

知術

- ・診察

これを行使した相手の肉体の状態を知ることができ。スリーサイズとかも分かつてしまつ…

勇術

- ・超肉体活性

氣術の肉体活性の強化版で、

効果は肉体器官の常時正常最適化と感覚・運動能力の限界強化。自分（自分の一部であると認識できたらそれでもいい）もしくは、血の契（具体的には処女を…）を交わしたものにしか使用できない不老不死になるわけじゃない。永久効果。一人一度。詠唱必須。

- ・過剰経験
- 努力地二倍「ボ
モンを思い浮かべてね」。永久効果。
詠唱必須
- 一人一度。

#00魔法について（後書き）

このページにあまり意味はありません。（え、？）

#0-1プロローグ

”俺は…死ぬのか？”

流れゆく意識の中で考える。

それとも既に死んでいるのか、或いは、生まれてすらいないのか。

それを知る者はいない。

”誰か…教えてくれ……彩”アヤ

「…さて、一心…起きてつたら。」

「…は誰だ、俺は何処だ。

何だ…何が起つてゐる。

「もつ…じょうがないわね…いつなつた…

俺は…智志武一心。そして…

「せえの…」

「せめ、せめ、せめて…」へり俺でも痺れるよ…?」

俺は身の危険を感じて飛び起きた。

頭を軸にし、後ろにはね飛び、数回まわって着地したほど身の危険だ。

「いや、痺れるで済むのは、一心だけ。」

と、先ほどいた所を見ると、バチバチとさせた張本人を見る。

彼女は彩。俺と契約した精霊で元人間。

というのも、彼女が人間であつたころに、すべての精霊と契約した結果、信託が下り精霊となつたらしい。

精霊としてのランクは最も上。全ての大精霊を統括する、神格位を持つた王精霊だ。

彼女に会つたのは15の時。

聖地の封印を解き、神の力を喰つて復活した、大魔王ガノンによつて、世界が瘴気に満ち溢れていた頃。

討伐隊であつた俺は、王精霊である彼女の力を借りようと、一級災害指定地ハガルへと向かつた。

その最奥で見たのは、瘴気に充てられ暴走、変質した彼女だった。

必死の死闘の末に、暴走を止めることに成功し、契約。

以後、俺に付いて来るようになった。

「「そんな」とよりも、此処は一体」「

俺たちしかいない全てが黒い空間について言おうとして、

「それについては私が説明します」

「「わっ！」」「

シンクロ率MAXだった。

つていうかなんだこれ、声だけが聞こえてくるぞ。

「結論から言います。ここは死後の世界、つまりあなた方は死にました。何があったかは覚えていますね？」

一瞬、何を言われているのかわからなかつたが、何とか理解して、返事をする。

「ああ。」

（回想）

「これで最後だ！－魔王ガノン－！－！」

俺は退魔の力を持った剣にすべての力を纏わせ、魔王へと突き立てる。

「おのれええ。このまま死んでなるものか！！」

ガノンはそういった後、最後の悪あがきを始める。

魔王の体から光があふれたかと思ひきや、黒い塊が体から吹き出でくる。

「拙い！…彩！…！」

黒い塊は魂。それは新しい「器」を求めて、転生陣を描く。

「ええ」

俺達は、それを阻止するための希望に託すこととした。

「「聖なる力よ！…わが命を糧とし、惡しき野望を打ち碎け！…！」」

命の焰が消えてゆく、体を構成する様々なものが剥がれ落ちていくのが分かる。

「「ラストジャスティス！…！」」

「最後の正義」それは命と引き換えに悪を滅ぼす力。

”俺は死ぬのか…”

かろうじて残った意識。

”世界は救われたのか？”

分からぬ。

”誰か…教えてくれ…彩^{アヤ}”

そして二人は死を迎える。

（回想終）

「で、あんたは？」

「神…いえ、この世界の意志といったほうがいいでしょうか。」

「どういうことだ？」

「あなた方のおかげで、魔王はこの世界から完全に消え去りました。
そのお礼をさせて貰いたいのです。」

「具体的には？」

彩が聞く。

「輪廻の輪へ介入することで、あなた方の新しい人生に祝福を与えることができます。」

ふむ。

「条件は」ひらが決めていいんだな？」

「可能な」とでした。」

「私は… そうね。王精靈として、契約精靈として、一心の傍にいたらしいかな。あと、靈体化自由をお願い。」

彩が先に言つ。

あれ？ 彩は精靈石化自由以外なんも変わらんのか… それじゃあ記憶の引き継ぎと、能力の引き継ぎと、容姿も引き継いで… あれ？ ほとんど変わらない？ うーん、じゃあ潜在エネルギーの無限化なんてどうだろ？

「一つ、記憶と能力と容姿の引き継ぎ。二つ、潜在エネルギーの無限化。これで頼もう。」

「わかりました。この先の干渉はできないので、お一人で頑張つてください。」

「感謝する。」「ありがと。」

穢れなき黒であつた空間に亀裂が走り、光があふれる。意識が一瞬飛びそうになりそして

「おしゃああ。おしゃああ。」

生まれた。この瞬間から自我があるというのは、変な感じだが、とにかく俺は新しく生を受けた。

「おお、レイースー！生まれたぞ！元気な男児だ！」

「あら、」の子の手…」

「なんとーこの模様は吉兆に違いない。」

右手の甲にある、彩との契約の記。光と闇を表す大極図の周りに火・水・雷・土・風を表すマークが等間隔に描かれ、それを囲むように正五角形と円が描かれている。

左手の甲には、魔術を極めた証が描かれ、聖三角（正三角形の三辺の中点を線で結んだの、武田のマークとかゼダのトライオースとか）の頂点を中心とした半径を

聖三角の一辺の半分とする円が描かれ、さらにその周りを大きな円が囲んでいる。

どちらの記も、色がかなりしつかりしていて、そこだけが皮膚とは別のものに見える。

「あーあー。」

えつと声が出ないな…発声練習から始めないとな…

「よしよしいい子ね。」

”あの〜、一心？”

「あーーー！」 “あわー！？”

”頭ん中いい歳した男が、乳吸つてるのもなかなか面白いもんだけ
ど”

「あー…」 “がーん”

結構グサツときた。ひどい、しゃしゃ。

”ああー！”めぐら“めん！－まあ、とにかく私はビビッたらいい？”

ちなみに念話を使って会話している。声が出るのは、生まれたばかりで体の制御が不安定だから。

「あ～。うーうーあーあーあああ～。うああうあああ。」 “まあ、
しばらく靈体でこといて、俺の話し相手になってくれたらうそ
おやすみ～”

”了解つす。”

「う～うああ。うーいうあーあーうつああああ。ああ、うあああー
”じゃあ、俺寝るわ、フィールドワークでもしどいて頂戴。じゃ、
おやすみ～”

”おやすみ”

やつぱり発声練習からしことな。やつ思いながら、意識を跟じて落としていった。

#0-1プロローグ（後書き）

えつとこつから本編です。

初めてなので、勝手がわからず、表現などもまだまだ甘いところがあると思います。

できれば、そういうの指摘をしていただけると嬉しいです。

#02 五歳になるまでのあれこれ（前書き）

五歳になるまでの色々を簡単に書いています。

ハルケギニアについてのことと、魔術などに関する考察も書いてます。

無理に、理解しなくてもいいです

あと、図上の設定をカリースさんの妹とこいつにしてしまった。

#02 五歳になるまでのあれこれ

「ねえ、一心。」

「ん？」

智志武一心、「この世界での新たな命アッシュ・シャイムーン・ド・ワードワーザ。俺は五歳（身体的）となつた。

「何してんの？」

「……勉強？」

いつの世界の言語は、当然ながら前世のそれとは違つたが、なぜか理解できた。

生まれてから「かくべう」と、「あーあーうーいー。」とほえましい（彩談）発声練習を繰り返し、

発声の口づが分かつてきて、ついにかうと両親の前に「父さん、母さん」と言つてしまふ。

家がひっくり返つたかと思つぽじの騒ぎとなつた。

父…クロノ・クロロベルム・ド・ワードワーザが「医者を…」イメージを呼べ…………と本気で喚いていたので、

一度殴つて黙らせて、「複雑な理由があつて、前世の記憶を継いでいる。」と言つたら納得してくれた。

この際に、彩のことも紹介しており、その後、家族には姿を見せている。

両手の甲の記の事もあつたからだと思つ。母…イレーヌ・リア・ド・マイヤールは終始、落ち着いていた。母は強し（いえただの天然です）。

口が動くようになつてからはあつといつ間である。“過剰経験”（勇術。努力地二倍「ボモンを思い浮かべてね」。永久効果。一人一度。詠唱必須）と、

”超肉体活性”（勇術。肉体器官の常時最適・正常化。感覚・運動能力の限界強化。永久効果。一人一度。詠唱必須）を使うことによつて、半年足らずで歩けるようになった。

（チートですね。わかります。）

それからずつと、この世界の地理・歴史・公民…つまり「社会」を調べている。

ちなみに、この世界では「科学」に代わつて「魔術」によつて支えられている。

一般に「四系統魔法」と呼ばれ、メイジにしか使えないらしい。メイジのほとんどは「貴族」であり血統によって伝えられるそうだ。

まあ、何故こんな言い方するかといつと、前世では、「術」は突然変異により先天的に使えるようになるもので、子には受け継がれなかつたからだ。

だから、メイジとして生を受けずとも使える可能性はあるし（ただし前世では六十億人の中で十人もいなかつた）、血統によつて伝えられるのにも疑問がある。

俺は、この世界に系統魔法をもたらしたといわれ崇められている、始祖ブリミルが何らかのシステムを作つたとみてる。（もちろんこの世界の理という可能性もある。）

あと「先住魔法」というのもあるが、これは「靈術」であるとふんでいる。他に、知られていない術系統の「氣術」を含め、全ての術の基礎となる。

詳しい事はまた語る機会があるだらう。

「何の？」

「この世界の。」

「えつと確か、ハルケギニアだけ。広大なハルケギニア大陸を中心とした世界で、トリステインを始め大小多くの国家が存在する。夜には赤と青の2つの月が浮かぶ。

文化レベルは中世～近世ヨーロッパのものに近いかな。魔法が発達しており、魔法使える者は貴族として敬われ、多くの人々は平民として暮らしている。

でも、貴族には横暴な者が多いから、不満を抱いている平民も少くないと思う。トリステイン・アルビオン・ガリア・ロマリア・ヘルマニアの5か国が

ハルケギニア大陸の西部にあって、ヨーロッパ大陸を南北に長くしたような姿だったね。西方のアルビオンは空飛ぶ大陸で地図の場所には定置していない。

また地図の右辺以東においては砂漠地帯を挟んで『聖地』、『東の世界』が存在するらしいけど、どうなんだろ。まあ、前世の地理に似ているところがあるからあるかもね。

火薬や銃、コードレスなどは存在するけど、技術レベルは基本的には手工業レベルで、工業製品を大量生産するという概念や技術はないよね。」

「ウイ ペテ アカよ！！」

おっと、思わず突っ込んでしまった。気を取り直して、

「まあ、うんそうだね。ちなみに砂漠にはエルフがいると言わされていて、東の世界はロバ・アル・カリイエとも言つね。」

いや、本当に、異世界ではなく平行世界なのかもしれない、前世にも一応魔法あつたしw

「でも、そんなことを勉強してるんじゃないでしょ？」

「ん？ああ。今は、色々な噂を纏めたりしている。」

「え？とどれどれ、『ガリアの亡き大公オルレアンの娘は実は双子でその片割れがセント・マルガリタ修道院で暮らしている』ってこ
れ国家機密じゃないの！？」

「まあ、そうだな。」

ガリアでは双子は禁忌とされ、双子が生まれた場合、片方が”いなかつた事にされる”風習がある。これは過去の事件に由来するらしいが…

「で、こんな噂とかいうレベルじゃないのを調べてどうするの?」

「うーん。とりあえず、この双子の片割れはほしいな…」

ちなみにセント・マルガリタ修道院は岬の突端にあり、周りは海と荒々しい岩で、竜籠などの空路じやないと行けないので「陸の孤島」とも言われている。

「いっ、行くの…?」

おい彩、暇で暇でしじうがないのはわかるが、田をキラキラさせるんじゃない。

「はあ、今日はヴァリエールの三女、ルイズ嬢の5歳の誕生日だろ。俺も5歳になつたからとかで、呼ばれてるんだぜ?」

母が、公爵夫人のカリーヌ・デジレ様と姉妹なので毎年呼ばれていたんだが（つまりルイズとは従妹の関係にある）、

複雑な事情があつたため（幼児が大人な対応を完璧にしていたら良く悪くも疑われるだろう）行かなかつたのだ。

5歳でも本当は危ない氣がするのだが、平均的な魔法修練の開始の

年なので（何がなのでなのかはわからな））、行くことされた。

「が～ん。」

「まあ、それが終わって、次の日なんてどうだい？」

そつ言いつと彩の日がキラキラキラキラ……そんなに暇か？

こんな感じで話をしていると、

「行くぞアッシュ！」

父の声が窓の外から聞こえる。おつともつそんな時間か。

「今、行きますよつと。」

腕輪に掘り込んでおいた、「早着」の術を使いパーティー用のスースーと着替える。

（早着…着替えを変身魔法のように一瞬で終わらせてしまつ氣術だが、普通に使うとエネルギー消費が激しい。こつして別の触媒に着替える服装と同時に登録しておけば消費を1／10000000000に抑えられる）

窓枠に足をかけ、すつと跳んだあと、滑るよつにして着地する。

「こつみても、不思議なもんだな。これで魔法なしとは信じられん。」

「屋敷の5階から飛んだのだが、そんなに不思議か？」

「訓練すればだれでもできますよ?」

「その訓練ができるのは一心だけ。」

ズドンッ。

「ずいぶん過激な突っ込みだな。」

頭の上に飛び乗つてきやがつたこいつ。いや、飛び落ちてきたと言おうか。

精霊なのでふわふわと降りてこれるはずだろ? ひ。

「行くぞ! 」

父は、そう言い、馬を走らせた。母は先に行っているらしく。

彩? 彩は靈体になつたら俺にくつついでいるられる。

俺? 俺はとりあえず、「浮遊」の魔法を入力した大剣に乗つて、父の走る馬に合わせて飛行している。

なぜ大剣に乗るかつて? 前世での移動手段が、飛行する武器に乗る、もしくは、魔法による転移だったからです。

「むづいこ… や…」

父は考えるのをやめたらしい。

#02 五歳になるまでのあれこれと（後書き）

大剣のイメージをさらに固めましょう。

モンハンで出てくるかなり初期の大剣を想像してください。

飛行する様子は、カービーのエアライドや鋼殻のレギオス（アニメ）の最後の方や、ソウルイーターのキッド君などを想像してくれたらいいと思います。

感想・アドバイスなどなど大歓迎です。（ただし、当然ながら誹謗・中傷・愚痴は却下です。）

ご指導鞭撻のほどよろしくお願ひします。

#03 ルイーズさん、クックベリーはまる。（前書き）

えつと、ルイーズさんとあれこれ。

カリースさんの性格描[写]が全然つましくなく、めっちゃ丸い気がする
と感ひんですけど、

猫をかぶつてこるとこつ判断でお願いします。

#03 ルイズさん、クックベリーにほまる。

パーティー会場へ到着。

「了解しました。」

なんか父が執事の人と会話していた。

「アッシュ。これから、カリース様がいらっしゃるわうだ。」

「さいですか。」

なんか「ハア」って感じの反応をしていると、前のほうから桃色がかつたブロンドの髪で目付きの鋭い高飛車なオーラが漂う女性がいかにも貴族っぽく歩いてきた。

そして田の前まで歩いてきて、

「あなたがアッシュ君ね？」

と言った。

「え？ はい。アッシュ・シャイムーン・ド・ワートワーゲです。」

「ほり、あなたも、挨拶しなさい。」

カリースさんがそう言つて、ドレスの後ろからおずおずといつた様子で、桃色がかつたブロンドの長髪と鳶色の瞳を持つ人形みたいな子が出てきて、

1

۶۹

「ルイズよ。よろしく。」

「娘とよろしくね。」

カリーアさんがそう言い、

一
頑張れよ

父がそれをと二人そろって向うへて手を振ってしゃべる母の

「つて待てよーー・ビッシュねとー?」

”あきらめなさい。”

こめん 落ち着いた

とりあえずどうしよう、贈り物…は既に沢山貰っているだろ？

しかし、そうだな……ここ貴族達だと宝石とかそういう物がほとんどのやないか？形として残るもの。

発想の転換をしよう。形として残らないもの…つまり、食べ物とか。

なんだろう…旅行に行つた時のお土産の話をしている気分になつてきた。

まあ、案外食べ物は悪くないかもしない。プレゼントとしては思い出に残りやすいし。忘れられない味…って感じでw

じゃあなんだ、

?…どうしてこのお土産にする?

女の子 + 食べ物 = スイーツ。これだ!!

パーティー会場には無駄に豪華な料理は並んではいたが、スイーツはなかつた。

?…どうやって作る?

貴、「鍊金でお菓子を作つてみよ~」とか言つて、研究したことがあつたな。

なんか出来た魔法を、ノリで”おかしなお菓子の隊”とか名付けた気がする。

…鍊金を応用しただけのやつだけw。

確かここへんにショートカットカードが、”じんじん”あったw。

クックベリーパイですか。いいですね。

?演出せざりひじょりへ。

えつじじじじじよりへ。

ポケットの中にはビスケットが一つポケットを叩くとビスケットはずして

それ採用！…よし完璧。

「ルイズ。僕の家に伝わる童謡のひとつなんだけど…」

嘘です。前世で比較的ポピュラーだと思われる童謡です。

～アッシュもとこ一心　s-i-c-o-n-e　n-o-w～

つこでですか、じじぞ～

「ふしきなポケット」　まど・みちお作詞／渡辺茂作曲

ポケットのなかにはビスケットがひとつ　ポケットをたたくと　ビスケットはふたつ

もひとつ たたくと ビスケットは みつ たたいて みるた
び ビスケットは ふえる

そんな ふしぎな ポケットが ほしい そんな ふしぎな ポ
ケットが ほしい

「じゃあ一緒に歌つてみよう。」

ルイズにはビスケットの部分をベリーパイに変えたものを教えて、
ポケットの中にクックベリーパイを入れて。

よし。「せーの」

「ひとつ」の歌詞と同時に入れておいたベリーパイを取り出し、

「たたくと」の歌詞と同時にポケットの中のショートカットカード
に魔力を入れて鍊金（作成）

「ふたつ」の歌詞と同時に入れておいたベリーパイを取り出し、（
以下略）

「すーーい。」（キラキラキラ）

うわーすごい食べたそつにしてるな… そいじゃ、ほい。

「あーん」と言つてベリーパイを差し出す。

「あーん」

ルイズが口を開けて、パクッといぐ。

ん？あれ？俺つてもしかしなくてもめっちゃ恥ずかしいことしてる？しかもフラグ立てちゃった？え？あれ？

”あんた馬鹿ね”

”あんたよりまーしょって何言わせてるんだ、この似非精靈が！！”

”ちゃんと精靈してるもーん”

キラキラキラキラ。え？もつと頂戴つて？なんだよもう～恥ずかしいじゃんw

「あーん」

くはっ。おねだり…だと…やばい超萌える。（傍から見たらアブナイ人だった。しかも五歳児）

「あーん」

結局、押し負けて、ベリーパイを差し出す。

パクッ。ハムハムハム…。

萌え————！————！————！（俺）を見ながら、一心不乱にもしゃもしゃしているルイズ。

”せっぱり馬鹿ね。この場合変態かしら？ｗｗｗ”

”ひぬせい”

食べる口の止まらないルイズにベリー・パイを5個ぐらい渡しておいて、屋敷の庭にでも行ってみよがかなと、その場を後にした。

……後で聞いた話だが、ルイズはクックベリー・パイ初だつたらしい。そしてなんか俺はフラグを立てちゃつたらしい。

#03 ルイズさん、クックベリーにほまる。（後書き）

どうでしたか？

とりあえず、ルイズにフラグを立てました。

といつてもパイの方に夢中だつたようなので、分かり辛いかもしませんが、

フラグが立つたことにじめておいてください。

感想・アドバイスなどなど大歓迎です。（ただし、当然ながら誹謗・中傷・愚痴は却下です。）

#04 カトリアの病氣?え、そんなのあつたっけ?（前書き）

今回はカトリアにフラグを立てます。（エレオノールは捨てますw）

病氣で苦しむ猫[彌]もなく終わってしまいますw

#04 カトーレアの病気？え、そんなのあつたっけ？

結論から言おう。迷った！！

Q・どいで？

A・ガアリホール公園亭

説明しよう。

目を輝かせながらクツクベリー・パイを食べているルイズを放置し、庭を探し歩いていた俺は無事庭へとたどり着いた。

池に映る双月をしばらく眺め、とあ戾ろうと屋敷に入る。

普段なりびつてこともなく帰れるのだろうが、この時俺は「ルイズ萌えー！！」に陥っていたので、

どうやって庭へ来たのかを正常に覚えておらず、「確かこっちだつたはず」と憶測に任せた結果迷った。

”バカね。”

グハッ。ま、まあいいとりあえず手当たり次第だ。

今俺は冒険者だ。最高にテンションハイだぜ

”やつぱりアホね。”

そういういながらも、しっかりと付き合ってくれるよつだ。

「とつあえず、ここから。」

ガチャ。

ワン、ニャー、ピー、ブー、ガルルル、フシャー。

……

ばたん。扉を閉める。

え、何？今の。大量の動物がこんな所にいる訳が……。

気を取り直して、

がちゃ。

ワン、ニャー、ピー、ブー、ガルルル、フシャー。

パチパチ、一度瞬いて、ゴシゴシ、皿をこすつて

「あらあら、面白い反応をするのね。」

女の人がいた。なるほど、動物が沢山いるが、一応部屋だ。人だつているだろう。

「しつ、失礼しました！」

あわてて部屋を出ようとする。

「あら、いいわよ。暇だつたんだし。そういうの方もどうれど。」

「『ハニーハニ』と笑いながらハリハリ。つてかそちらの方?」

「あら、私のことを見えてたの?」

見えてたならいいやと彩が実体を現す。

「なんとなくよ?」

なんとなくつて…おい、どんな勘が鋭いんじやい。

「あなたは?」

「私?私はカトレアよ。えつと確か…そう…カトレア・イヴェット・ラ・ボーム・ル・ブラン・ド・ラ・フォンティーヌだったと思うわ。」

自分の名前を忘れかけるつて…まあ確かにくそ長いけどな。

「一応、フォンティーヌ領主つて事になつてゐるけど、ここはの次女。

」

「ん?そりいや何でパーティーに出ないんだ?」

「カトレアさんは、パーティーに参加しないの?」

お~う、聞きたいことを先に行つてくれるな、彩さん。

”何年の付き合いでと思ってるの。 ”

念話で返していく

”そうでした。”

「三年前に病に罹ってしまって、まだ誰にも治せたことがないの。だからほとんど部屋暮らしだった。

そう言つてゐるカトレアさんは諦めと寂しさの入れ混じつた感じだった。

「診たげたら? あんたら治せるんじゃない? 」

「せつ…だな。やつてみるか。カトレアさん。俺に診をせてくださいますか? 」

「あひ、お医者さん? いいわよ。 」

カトレアさんは誤魔化すよひに口ひ口と笑しながらやつて言つた。

「失礼」と言つてから、カトレアさんの手を取る。

「カトレアさん。 」

「何? 」

「今から僕があることは、誰にも話さないでくださいね。 」

「……わかりました。 」

「いきます。……”診察”」

”診察”とは、相手の肉体の状態を”識”るための知術。（邪な意思？……（汗）僕知らないよ？）

こんなまどろっこいことをせずに、”超肉体活性”を使えればいいんだが、それは自分もしくは血の契を交わしたものにしか使用できない制約があり、

その格下の”肉体活性”（氣術。肉体器官の最適化。）を使を使うにしても、

癌の人にそれを使つてしまつた場合、「正常な細胞」から生まれた「癌細胞」まで活性化してしまつので、治療の時にほこれを使つていいかを先に調べる。

その結果わかつたことは、将来このまま育てば巨乳と化すだらうといつこと……じゃなくて……（心なしカトアマさんの目が痛い気がするよ）

”変態”という突込みは無視しておぐ。“ちょっと”と無視されたことにに対する言及も無視。うむやこいつちは集中してるんだ。

”あなたは遊びでもいいけるだろ……”

”治療行為は初めてなんだ。さつさと黙れ。”

つとまあ、話がそれかけたが、

やつぱり癌の類だった。（正確には癌ではない）このまま“肉体活性”を使えば一時的に健康を取り戻すが、一週間後に死んでしまう。

治す方法？当然あるに決まっている。こんな時のために（使ったことはなかつた）”肉体正常”（氣術。肉体器官の正常化。）を開発してある。

え？ 素直にそつち使え？ あ、うんそうだね。今度組み合わせておくよ。前世じや、病気にかかる奴、周りにいなかつたからな～

そもそものそういうものに対する耐性がみんな強すぎたのだ。

「 同調 」

”同調”とは、氣術を他人に施す際、必要となる氣術である。（氣術は基本的に自身を強化するの術だから）

ある程度の感覚の共有が出来、邪な意思を持つて使える……げふんげふん

” やつぱ変態ね。 ”

そんな風に使つたことはないと真実の女神にかけて言えます。

「 肉体正常 」

カトレアさんの体のおかしい所が見る見るうちに修正されていく。増えすぎた細胞はそぎ落とし、狂った器官は正しく戻し、削れた体を再生していく。

さつき分かつた事からの推測だが、恐らく力任せな治療が施されたのだろう。癌の成長を促進し、それどころか強すぎる魔力で肉体を削っていた。

いつ死んでもおかしくない状態なんだが、彼女自身の精神エネルギーによって寸での所で止まつていたのだろう。

治療をあきらめるのがもう少し遅かつたら彼女は死んでいたかもしない。

「”肉体活性”」

正常な肉体へ戻ったとは言え、体の疲れは取り残される。つまり免疫の低下、筋肉の疲弊などなど療養生活をしていった結果の”疲れ”を治していく。

これで大丈夫なはずだ。

「終わりました。成功です。調子はどうですか？」

そこじで集中を解き、同調を外す。ふとカトレアさんの顔を見ると心ここに非ずといった感じだった。

「カトレアさん？」

そう呼びかけると、意識を取り戻したかのように驚き

「ええ、大丈夫。なんだか、体にあつた寒さがなくなつたみたいな感じ。」

と、笑顔で語った。

「よかつた、治療は初めてのことだったので、つまづいくか心配だつたんです。」

「ありがとうございます。うれしい！」

なんか飛びついて抱き着いてきた。男なら嬉しい場面なんだけど……

「五歳児が、十三歳女に抱き着かれてる……シユールだ。くふつ、はははは。」

なんか本氣で笑い始めた。

「カ、カトーレアさん。とととつあえずパーティーに行きましょう。」

「ええ！」

「いつになつたら」のテンションは取まるのか……

「自業自得よ。」

「黙れ、鬼畜毒舌精靈が。」

「あんた相手だつたら誰でもいいつなるわよ……」

#04 カトレアの病氣？え、そんなのあつたっけ？（後書き）

カトレアの性格ってどうなんだろう？

よくわかんないな…ほわぽわしたイメージ？

とりあえず、カトレアさんの性格については適当に解釈してくください。

感想・アドバイス等あればお願いします。

#05 フラグが婚約に進化

やあ。パーティー会場にただいま。

いや～慣れない」とつてしづちやダメだね。

カトレアさんの誘導で見事（じやなくて普通）に戻つて来れた。

「お母様～！…お父様～！…」

カトレアさんが両親を見つけたようだ。なんかぼわぼわとしたオーラを放ちながら、手を振つている。

「「カトレア～!？」」

両親そろつて一瞬で飛んできた。いやほんと読んで文字の如く、一瞬で。瞬きして田を開けたら田の前にいたね。

「「つおあー?」」

これには俺が驚くこととなつた。

”落ち着け”

彩さんありがとー。ちなみに、今は姿を消してもうつっている。

「「カトレア、出歩いて平気なの（か）！?」」

「ええ。この子…あれ名前を聞いてなかつたわね。」

「アッシュ・シャイムーン・ド・ワードワーゼです。」

速攻で返事をする。

「平氣です。だって、アッシュ君に治してもらいまし

言い終わる前に

「本当かカトリアー・ビニが痛いところは、疲れてないか…？」

公爵様。親バカスキル発動。

「「落ち着け（きなせい）…！」」

俺のジャンプ突っ込みと、カリースさんのゴージャス突っ込みが同時にに入る。

「ふおあ！？」

あと少しど、床とキスしてたな。

「それで、本当なの！？」

母君も親バカ様でしたか…

「ええ、本当です。なんなら別の医者に診てもらつてもかまいません。」

「おお、おお！神よ！ありがとうございます。」

公爵様、治療したのは俺です。つてこた俺は神か！？いやちやうな
…まあ神（魔神）なら前世で数百と殺しているんけどな…

「アッシュ殿！！」。

「殿」と来ましたか、カリーヌさん。

「なんでしようか？」

「カトーレアを婚約者としてもらっていくだぞー。」

手を握り、ものすごい剣幕で迫ってくる。ちよ、顔近いです。

まあどうあえず
ん正氣？
……………奥さ

「…………えつと公爵様は？」

聞いてみると、

「もちろん不満などない！…むしろ、アッシュ君以外には嫁にやら
ん！！」

まあ、不満はないが…（光源氏的な約束はされているから）

「…………えつと、カトーレアさん？」

恐る恐る、聞いて

「嬉しつ！」

むわわ。ふおつへ、なんか柔らかいものが！？顔にあたつてゐよ！
！将来そりは大きくなるであつて柔らかいものが！顔にあたつてゐ
よ！

”

そくう!? 何だ、今の（冷せやかな）視線は

そう、今の感じを表現するならば、蛇に睨まれた……いや、龍に睨ま
れた蛙という感じだ。

”
變態。
”

ふぐおお。

「
婿殿
？」

もうすでに婿なんかい……。

「なんでもああありますんよ。」

ちよつと、
眺まれてるだけで
ひええ！？

なんか、カトレアさん、彩さんと睨み合いをしているよ！？何か黒いオーラが飛び交ってるよ！？今ならストレスで禿げれそう！？

「かかかかカトレアさん！？」

「なんでもないわ。」

ぼわぽわした感じで返してくれるが、怖い」わ」ハワイ恐い」ハ」
笑顔が怖いよ！？

「で返事を聞かせてくれないかしら？」

今すぐですか！？なんか、テンパつてしまつておもわす、

「ところでルイズは…」

むづいでもしおいたのがいけなかつたらしい

「ルイスも貰ってくれるのですか!?」

とか返してきて、しかし「へ父ケロノかヤ」で来た。

父上!!父上はどどどなんですか!!?

お
アラシニ
手が早いたゞ

極めつけに、

「あっしゃーーー！」

とか言いながら、俺に向かつて走つて来てDIVE!-!をしてくれ

たルイズ、思わず

と、返事をしてしまつた。

あ、
終わつた。

”オメテト”（282828）”

九三

「おぐくね」

-

ooooooooooooo-----!

#05 フラグが婚約に進化（後書き）

あれ？ハーレムになるかも…

つてか、もとよりその気ではあつたけど、この先の展開が読めない
からな）

ちなみに彩さんはひやんヒロインです

感想・アドバイス等あればお願ひします。

#06ジラヤシト救出？作戦？（前書き）

「めんなさい調子乗つてました。

なんか、話がぐちゃぐちゃで何が何だか分からなくなっていたので

とつあえず、頑張って、シリアル修正出来たらなーと思つています。

#006ジョゼット救出?作戦?

燃え尽きたぜ……真っ白にな……

なんか、婚約がどうとかのあたりから全く記憶にない。

ルイズにパイを要求され、作りまくったり。

……ショートカットカードのおかげで消費が抑えられたとはいっても魔力の1／3は使った。

上機嫌になつてなんかテンションがおかしくなつたカトレアさんに、ワインを飲ませられまくつたり。

……彼女には今後一切酒類を飲ませないと誓つた。飲ませるとしても、アルコール抜きにしなければ…

同じくテンションが限界突破していた親バカカルテット（四人組）と飲み比べという名の戦闘をしたり。

……超肉体活性で肉体を超強化しているのに、死にかけた。

つていうか、実質酔う事はなくなつたはずなのに酔つた。

おかげで、人生初（前世含む）の酔い止めの氣術を使う事となつた。

現在、ヴァリエール公爵邸から少し離れた所の草原
やつとパーティが終わって、まだテンションが高い連中から死に
物狂いで逃げ出してきたところだ、

気配遮断系使つてもよかつたが、正直振り回されっぱなしで、錯乱していたためそこに思い至らなかつた。

「向こうの駅へ行くと、あつたのが、今、

الراي العادي

説明します。現在テンションマックスの彩さんが風精霊の力を使つて、俺たちを大空へ強制連行しております。

「待て待て待て！！！一体どこに行くんだ！？」

ん？なんか忘れてる気がしなくもない……が、

「双子の片割れを助けに行くんじゃないの？」

現在上空。吹き荒れる防風やらなんやらで多少聞き辛かつたけど、何とか聞き取れた。

「あー、思い出した。なんか、終わつたら行くとか言つていた気がしな」でしょー。じゃあレッスンゴー！－！－！」キヤ

! !

俺のつぶやきは、突風によつて中断させられた。

風魔法だけでマッハ超えるとか…何それ怖い。

とにかく、一いつ円を眺めながら雲の上を（超高速）飛行するのだった。

安全な空の旅…………

おへり。おえ…

現在地点、セント・マルガリタ修道院上空。

「まんま教会じゃねえか。」

空中での姿勢制御を取り戻し、荒ぶる鷹のポーズ！…とがバカなことをやりながら、そう言つた。

シンボルまで十字架だつた。

本土との距離はかなりあって、向こうからでは見えないだろう。

泳いで渡るなどとこひ考えは普通は思いつかない。（俺はできるが）

田測で大体バチカン市国へりこの辺の日本の田型の島で、その全体を立つて修道院が立っている。

修道院といつても、中で畠ゾーンや住居ゾーンなどがあり、自給自

足でやつていけるようになつてゐる。

「こゝは一種の監獄のようなものかもしれない。

「そつさと行くか。」

「わうね。」

そつとてから、空中での姿勢制御を解除する。

いわゆる自由落下だ。

ちなみに、腕を組んで空中逆立ち……とかやつていたため、頭から自由落下だ。

修道院の屋上に向かつて、頭から落ちていき、頭で着地した。音も立てずに。

周りから見るとこんな感じだろう。

なんか逆さで落ちてきた男の人が、屋上に頭をぶつけるかと覆つた瞬間止まつた。

つて感じ。

種明かしをしよう――！

超人的な肉体で、（超人的な）受け身を取つただけだ。

ついに物理法則を超えた！――つてわけではないが……

「何アホな事やつたらのよ。」

「いやー。なんかつこやつてみたくなつて。」

アホだつた。

「ま、わつわと行つや。」

ガチャ。

ドアが開く音がする。

ガチャ？

先に言つておけ。ドアを開けたのは俺ではない。

「私でもないわよ？」

一人して首をかしげる。そして音がしたほうを見てみると…

「…？」

…なんか驚愕してゐる女の子がいた。

黒い修道服に身を包んだグレーの髪を持つた女の子（幼女）がいた。

つて言つた、叫びそなつてゐる！？

俺は神速で動き、その子の口を塞ぐ。

変な意味でとるなよ？手で蓋をしただけだからな？

「驚かないでくれ。俺たちはここに人を探しに来た。」

そつとうと「ククク」とつなづく。

おーケー。大丈夫だわ。

手を放す。

「どうすればいいでしょうか。」

少女は片言で聞いてくる。

「そうだな……ここで一番偉い人に合わせてくれ。」

「わかりました。こちらへ。」

「待て。俺は一心、あいつは俺の従者で彩と言ひ。お前の名は？」

一応、アッシュの名前は伏せておき、彩は別にいいだうと判断。

「私はジョゼットと言います。」

「分かった。案内してくれ。」

後で、この子が双子の片割れだと聞いた時にはマジで驚いた。

廊下に一人の足音が響く、彩は浮遊しているので足音はない。

石造りの建物で、廊下は何の飾り気もないものだった、

あるとすれば、柱の装飾程度か。

窓のある廊下は、月明かりなどでそこまで暗くはなかつたが、

建物の内側の廊下：つまり窓のない廊下は暗く、飾り気のない石造りの廊下といふこともあって、何かが化けて出そうな雰囲気を醸し出していた。

ノンノン。ジョゼットがドアをノックする。

「院長。客人です。」

「通しなさい。」

ガチャ。ガチャガチャ。

場違いな音に多少ビビりながらも部屋の中に入る。

立派な机と立派な書類棚以外、ほとんど何もない部屋だった。

一応、礼をしてから部屋に入った。

「失礼します。」

#006ジヨセジト救出？作戦？（後書き）

ん~。後1・2回で救出？作戦を終わらせるつもりです。

修道院のイメージが思い浮かばない……

うまく描写出来たかが不安になってしまいますが……

まあ気付いたことあれば言つてください。遠慮なく。

アドバイス・感想等貰えればうれしいです。

これからも頑張ります。

#07 ジョゼイント救出？作戦？（前書き）

シリアル修正……出来てない気がする

もつなんとでもなれ！

#007 ジョゼット救出? 作戦?

「初めまして。」

「初めまして。」

「初めまして。私はここで院長をやっているメイと言います。」

此処の一番偉い人…メイさんは以外にも?若い女性の人だった。

まあ、表現するなら、普通の美人だ。普通の。

人によって、普通の美人っていうのは違うかもしれないが、

何処にでもいる、ただの美人だ。

…………この話はここまでにしよう。

「用件をさつさと話そう。」

「聞きました。」

五歳児（見た目だけ）が作る空氣ではなかつた。

「俺たちがこの島へ来た理由は一つだ。

亡きオルレアン公の双子の娘が妹を貰いに来た。」

「…?」

「何故それを知っているのか？つていう顔をしているな。

風に噂を届けてもらひつただけだ。ただの魔法だよ。」

”風の噂”という風系統の魔術で、様々な情報をワンドームに風に任せ、聞き取る魔法だ。

村のAさんに子供が出来た。とかこうひうどもいに噂や、

ダングレテールの虐殺はリッシュュモンの仕業だ。などといつ重要な情報までなんだが、

いかんせん、世の中の情報のほとんどはじつでもいいものが多い。

九割九分九厘以上どうでもいい噂だらう。

まあ、ただたまに。暇だなって時に聞いてみると案外、国家機密とかが漏れてくることがある。

効果範囲は一応あるが、三王国とロマコア、ゲルマニアはカバーできる。

一応ただの暇つぶし魔法だが……

「それよりも、亡きオルレン公といつのせ……？」

「へ？ 知らなかつたのか？ さすがに知つてると思つたんだけどな……

まあいい。奴は死んだよ。ガリアの無能王に殺されたらしいって言う噂があるが。」

「そんな……」

「どうこう関係だったのかは知らないが、それなりに良くてしてもらひつてたのだらう。」

「で、妹はどうなつてゐる。」

誤解を招きかねない言い方だつた。

「お待ちかね。その子を引き取つた後、どうなつてもうつもつですか?」

メイさんは俺の田を真つ直ぐ見ながら言つた。

「俺の妹としてうちの養子になつてもうつ。人並みの幸せは保障しよつ。」

俺も彼女の瞳を瞳の奥を見ながら言つた。

「…………」

「…………」

しまへ無言の時が続き、そして、

「ジョゼット。首飾りを外しなさい。」

メイさんが後ろに控えていたジョゼットに話しかける。

「で、ですが院長……いいのですか？」

首飾り……ロザリオとでも言おつか。それは一度と外してはならない物らしいが……

「かまいません。外しなさい。」

「は、はい。」

ジョゼットが手を後ろに回し、少しかちゃかちゃいじつて外した瞬間、彼女の姿が変わった。

髪の色は青、顔だちは幼く変わり、背は……あまり変わっていなかつたが。

「やつこつ」とか……

結構驚いた。

まあ、首飾りに魔法が組み込まれているのは気づいていた。

……何の魔法かは気にしてなかつたためわからなかつたが。

「はい。この子がオルレアン公の双子の娘の妹です。」

「……貰つて行くぞ。ああ、もちろんただでとは言わない。」

俺は、ここにいる人全員に自由をやつ。それを約束する。

再び、見つめ合つ。……もちろん変な意味じゃなく。

「……わかりました。ジヨゼット。この方と行きなさい。」

「いいのですか！？」

「臺灣びと躊躇いの混じつた声をあげるジヨゼット。

「いいんだよ。お前にはその権利がある。俺が保障しよう。」

ジヨゼットの前まで行き、顔を見つめながらソラヒト。

「またなメイ。あ、名前を言い忘れていたな。俺はアッシュ。もしくは一心。どちらかで呼んでくれ。ちなみにこいつは彩といつ。」

「じゃあな～」

俺はジヨゼットの頭に手を置き、そして、転移魔法を使った。

移動先は家の自室。

……ちなみに靈術。行つたことのない場所には使えず、一番多く居る所には、エネルギーを必要としない。

部屋には鬼（母）がいた。心配を通り越して怒っていた。まあ、心もといアッシュの結末は、想像に任せよう。

#007ジョゼット救出？作戦？（後書き）

全然五歳児らしくない……主人公はいいとして、ジョゼットが。
……修道院の教育レベルが暇すぎて高かつたってことにしといいで
い？

つていうか、今回は話がつながってないというか、なんていうか、

自分でもなに書いてんのかわからなかつた。

だから、今回は大目に見てくれ。

次から頑張るから。 いつ言いつ奴に限つて……

感想、アドバイス等お待ちしております。
今回は切実に、バシバシ指摘して頂戴。
話のつながりが見えない所とか、いやマジで。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5653o/>

どっかのオリ勇者さんがトリステインに転生したよ

2010年11月4日22時37分発行